

子どもも青年も大人たちも地域で手をつなぎ育ちあう

東京の子ども会・少年団

No.260 2012.10.15 発行

発行所：NPO 法人東京少年少女センター 発行人：神代洋一
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-44-11 ホワイトバーチ 1F
電話：03-3379-7479 FAX：03-3379-7027
http://www.children.ne.jp/ info@children.ne.jp

第26回

少年少女雪まつり始動です

今年度は、2013年2月9日（土）～11日（日）に開催です。雪まつり指導員のリーダー「雪っ子」を中心に、今年はどうな雪まつりを作っていこうかと会議を重ねています。

11月にはパンフレットをお届けしますので奮ってご参加ください。



第41回

少年少女キャンプ村

8月3～6日 戸狩とんだいら高原

41回目の少年少女キャンプ村は、8村、参加者総数320名で実施されました。東京の各地から大型バス8台で、長野県飯山市戸狩温泉のとんだいら高原へ行ってきました。

地域	村の名前	班数
調布	ムーミン村	4
世田谷	LEGO 続ける村	4
大田	ユニオン村	4
小平・西東京	こだまセンターしま村	3
町田	きのこ村	3
八王子	竹の子村	3
板橋	板橋村	3
杉並・中野	チームプラス0%村	3

スタッフの参加者は40名を超え、テーマ別、資材、食料配布、ゴミ等、役割分担し、また、多くの人の手書き原稿でできた「手づくりスタッフニュース」も発行されました。

スタッフニュースや自治委員会新聞をお読みにになりたい方は、東京少年少女センターまでご連絡ください。

来年のキャンプ村は

2013. 8. 8 (木) ～ 11 (日) に開催します。ご予約おきください!

■■■スタッフニュース追加記事■■■

2012年8月6日 キャンプ4日目

おわりのつどい

3日間晴天続きだったのに、夜中から雨が降り、どんより霧に包まれた朝を迎えました。最後

の食事を作ってみんなで「いただきます」。撤収に入る頃には暑い日差しでテントも乾き…。

12時に全員が集まって「おわりのつどい」です。スタッフあいさつの後、自治委員アピール。

さき：4日間どうでしたか？まだ下山、バスレクがあります。最後まで盛り上がっていきましょう！

もえか：あつという間で、楽しかった。友達になってくれたかた、ありがとうございます。

きょうこ：おわつどが終わると全員で会うことは無い。このつどいで交流深めて帰ってください。

さくら：4日間自治委員やって、キャンプ来れて楽しかったです。みんなありがとうございました。

そして「中3アピール」子どもとして最後のキャンプになった8人が、キャンプ大好きなこと、来年への思いを語りました。アピールが終わる頃、ゴロゴロと雷が鳴り怪しい雲がもくもく…。

続いて「大きな拍手」。班長、村役、指導員、生責、スタッフ…雨が降りだしました。頭上にブルーシートを広げる村、個々にカッパを着込む村。「戸狩のキャンプ場に大きなはくしゅ〜う！」

テーマソング「夢色ポケット〜心の旅〜」を熱く歌い、シートの下でも踊る、多少濡れつつでも踊る踊る！「チクサク」のパワーに雷様もびっくりしたのか、雨が止んで…。

◎テーマ別再会の時間

3日目のテーマ別ごとに集まって、指導員から修了証や写真が手渡されました。和やかに言葉を交わし、別れを惜しむ様子も。充実した時間を過ごし満たされた感覚と、これで終わってしまう寂しさが混ざり合う、おわりのつどいの時とはちょっと違う、不思議な空気が流れる時間でした。（杉並・齊藤睦美）



11月3日は代々木公園へ あそび万博2012

代々木公園との共催で実施している「あそび万博inTokyo」は、11月3日です。今年で9回目になります。

代々木公園の広場いっぱい外遊び・集団遊びのブースが広がります。その数20以上。だれもが知っている「はないちもんめ」や「大縄とび」、ボールやドッジビーを使った遊び、全身を使って遊ぶ陣取りなどなど、高校生や大学生たちが子どもたちの遊びをリードします。

時間：10時～15時

会場：代々木公園中央広場

主催：代々木公園サービスセンター

NPO法人 東京少年少女センター

後援：東京都教育委員会

心の東京革命推進協議会(青少年育成協会)

協力：少年少女センター全国ネットワーク



地域のたより 八王子

わかば少年団 夏の活動

わかば少年団は八王子みなみ野地域で活動している少年団で、現在は月1回の定例会や夏休みのキャンプ、中学生会などの活動をおこなっています。

2008（平成20）年12月7日に決団式を行い、みなみ野少年団から「わかば少年団」としてスタートした比較的新しい少年団です。

わかば少年団はまだできてから数年しかたっており、発足当初は近隣の大学から大学生が指導員として参加しており、今年度初めて子どものときから活動していた子たちが指導員になった高校生指導員が生まれました。

今年度のキャンプは、9月16、17日に町田市にある大地沢青少年センターにて1泊2日で行い、子どもと指導員合わせて約40名が参加しました。

キャンプの準備は7月から始まり、事前に班会議を3回して班の結束を深め、キャンプ本番にのぞみました。

キャンプ当日は悪天候の中、1日目はキャンプ場でオリエンテーリングをしてカレーの食材を集めました。集めた食材で各班個性的なカレーを作りました。キャンプファイヤーでは同じ八王子地域で活動するレインボー少年団の指導員9人がキャンプファイヤーを盛り上げて来てくれました。キャンプファイヤー中は子ども・指導員が一緒になって盛り上がり、キャンプソング13曲を歌い上げました。

2日目はお菓子作り対決、中学生の企画で昼間の肝試しも行い、今年度も楽しいキャンプをつくることができました。

まだまだ若い少年団ですが、年々子どもたちや指導員の成長を実感しています。今後も子どもたちの遊び・学びの場として活動を続けていきたいと思っています。（相澤誠、吉松直樹）

地域のたより 杉並

夏のどろんこキャンプ

8月18～20日 山梨県道志村 月夜野キャンプ場
これは夏にもどろんこ少年団だけのキャンプを開きたいと決起した指導員たちと、キャンプを遊び尽くした子どもたちの、活動の記録である。かも。

行きのバスは、下見段階で懸念されていたバス酔いを警戒して（警戒し過ぎたとの声も）半分寝て、半分歌い倒したため、あっという間にキャンプ場前に着いてしまった。

幸か不幸かバンガローに付いて早々に雨が降り始める。しばしの室内遊びの後、雨が止んだところでキャンプ場見学へ。そして、第一のお楽しみ、スイカ割りが始まった。しかし悲しいかな、今回用意されたスイカは一個だけ。借り物の棒が叩き折れるという素敵なハプニングがあったものの、小学校低学年の手番の内にスイカは早々に割れてしまった。

砕け散ったスイカを啜り、プログラムは晩御飯作りへ。湯婆婆班が川を背景に颯爽とバーベキューをする裏で、ビル銀班は作成難易度A級料理：広島焼きに挑戦。ついでに冷蔵庫を使わずにバケツプリンを作るという暴挙にも出ていた。難易度が高いだけにどちらも美しい形に仕上がったときは感動もので、携帯カメラのシャッター音が飛び交った。しかし、予想外にうまくいった広島焼きには予想外の落とし穴が。最後は普通のお好み焼きを作ろうとしたらなんのマジックか、いつまで焼いても火が通らなかったのである。粉モノとは恐ろしいものである。

そんなわけで遅れが出ながらも夜プロに移動。

内容は、キャンプ場内に隠されたお題の紙を探し出し、そこに書かれた指示通りのことを審判の前でやるという新感覚の宝探しゲームであった。歌って踊ってイケメンを拉致してと、様々なお題に右往左往しながらの激しい戦いの末、ビル銀班が18対8の圧倒的な点差で勝利した。これほどの点差がつくとは一体どんな点数設定だったのか、真相は闇の中である。



二日目。

目玉企画であるハイキングは、父母やじっちゃんが用意したゲームのおかげで予想以上の盛り上がりとなった。「☆」と「○」を探せというゲームでは、枝で地面にこっそりと組まれていた☆○マークに小学校低学年が先に気づいたり、大人よりも子どもが活躍できる内容だった。ちなみにこちらでも、やけにゲームに強いビル銀班が勝利。ハイキングが終わったあとは滝での水遊び。しゅんや曰く「俺が世界の王だーっ!」。かくして世界の覇権を争う戦い（滝壺の中で揉みくちゃ）が勃発したりした。ちなみに滝から落ちてくる水は本当に痛い。水の中に固体が混ざってるんじゃないかと思うくらい痛い。それを頭どころか口で受けている、悟りが半開きな男の名はらくパパ。次元の違いを感じさせる。

キャンプ場に戻り、しばしまったりした後、キャンプ恒例のカレー&フルーツポンチ作り。夏野菜入りのカレーは一日目程の大きな問題も発生せず、美味しく完成した。夕御飯が終わると目玉企画第二弾である演芸大会が広間で始まる。中学生男子チームの「ブレイクダンス風ジンギスカ

ン」はらくの体力の限界までアンコールが続き、みほことみかの「創作早口言葉」は結局言えたり言えなかったりでまったりとした雰囲気になり、ももとかなるは各々持ちネタ(?)の「エクソシスト的ブリッジ移動」と「三点倒立しながらカッコイこと言います」で急場をしのぎ、小学生男子チームは「はっはっはっ、ばかやろう」で癒しを振りまき、あつひろは「創作おとぎ話」でカオスな世界を展開し、それぞれのチームがまったくタイプの違う形で笑いを取っていった。予想外に大盛況な演芸大会のメに名乗りを上げた悟りが半開きな女の名はゆうきさん。軽音部メインボーカルのこうきでも歌詞が恥ずかしくて歌いこなせない「バラはあこがれ（女子になりますVer）」で次元の違いを感じさせた。

演芸大会が終わると外へ移り、キャンプファイヤーが開始されるが、薪が燃えづらかったり音響が壊れたりトラブル続き。しかし、最終的にはキャンプ初心者の子達もノってきて、盛り上がるファイヤーとなった。

三日目。

朝食作りと撤収を大忙しでこなした後、ある意味夏のキャンプ最大の楽しみだった川遊びへ。SSキャンプで行くような川にも劣らない大きな川で、水流に逆らって泳いだり、飛び込んだりと、水遊びを満喫した。

お昼ご飯にはいつものホットドッグに加え、えんどう豆やスイカといった嬉しい差し入れがキャンプ場からあった。「ちょっとおいしい水だよね」と言いながら、薄味の黄色いスイカで水分補給。すっかりお疲れモードながらも歌い続け、バスで阿佐ヶ谷駅に帰り着くと、最後にとんだサプライズ。同じ日程で旅立っていたSSキャンプ組とバツタリ出くわしたのであった。それぞれのキャンプが解散してからは、互いのキャンプの自慢話（苦労話とも言う）を語り合う場面もあった。

あっという間の三日間。指導員として力不足を感じる場面もまだまだあったが、失敗からも楽しみの生まれる、良いキャンプであった。（杉並・どろんこ少年団指導員 齊藤奏瑠）

=== === === === === === ===

地域のたより 調布

夏の青空学校

9月9日(日)、調布市の神代団地集会所にてポンポン船&水遊びをしました。参加人数は、子ども32人指導員13人と子どもは、そこそこで指導員は多い行事でした。

まず午前中はポンポン船づくり。ポンポン船は、アルミパイプをクルクル巻いてろうそくの炎で熱し、温められた水が噴き出す力で進む船です。

崖の上のあの子ども乗っていたとか…船体には牛乳パックを使い、作りは簡単なのですが、ポンポン船のエンジンとなるアルミパイプを単二電池を使って巻くのはなかなか繊細な作業だったので、子どもたちには難しく、苦戦していました。

でも、少し時間が出来た子や工作が好きな子はデコレーションをしてひと目でこの子のだとわかるポンポン船を作っていました。



午後はみんなが待ちに待っていたゲームの時間。作ったポンポン船を使ってリレーをしました。

4班対抗で班員全員のポンポン船を走らせタイムを競いました。ポンポン船によってゆっくりまっすぐ進むモノ、早いけど曲がってしまうモノ、クルクルと回ってしまうモノと色々ありました。個性的～!

次に、2チームに分かれ、敵の的を水風船や水鉄砲を使って破く水難激烈をやりました。全部で2ゲームしか出来なかったけれど、小学生から中学生までもがビショ濡れになりました!遊んでいる子の中には、久しぶりにいい表情をしているなあって子もいて楽しい行事になったかなと思います。(指導員:まさし)



地域のたより 小平・西東京

「本と遊ぼう パート2」

2012年8月19日(日)

今年の夏の父母企画は「本と遊ぼう パート2」という事で、公民館の集会室で担当父母の方が考えてくれたゲームを3つの班に分かれてやりました。

最初のゲームは「ペケポン川柳」!

班に渡されたAグループとBグループの言葉を組み合わせて川柳作りの練習をしました。

「夏休み 今日で終わりの」+「日記書く」

「うまそうに ビール飲んでる」+「お母さん」など名回答、迷回答が続出しました。(^_^)

次に、各自一つずつオリジナルの川柳を考えました。

「かぶとむし 宿題なくて うらやましい」

「休みあけ はやくきてくれ 冬休み」

「夏休み 自由研究 ものづくり」

などなど、なかなか名作ぞろいで、みんなからも「お～」という声が上がっていました。

次のゲームは「表紙を作ろう」でした。

父母さんが「100万回生きたねこ」の題名を伏せて読み聞かせをしてくれた後、班毎に題名を考えて表紙を作成してもらいました。どの班も力作ぞろいで、作者名など細かいところまで凝っていました。



つぎは「下敷きにしていた新聞紙を丸めて素敵なドーナツを1人1個作ろう」

テーブルが汚れないように敷いていた新聞紙で片付けもかねて各自輪っかを作成してもらいました。これが後でどのような役割を担うのかお楽しみ！

その後は「図書館クイズ」

各班に5問の問題用紙を渡して図書館で調べものクイズをやりました。

問1①近代オリンピック②電話③インスタントラーメン、始まったのはいつ何処で。

問2①かぶとむし②ちょう③せみ、の種類を5つ。

問3①「は」②「か」③「お」ではじまる作家の名前5つ。

問4①くま②ねこ③うさぎが出てくるえほん・ものがたりを5つ

問5お話の最初が「あ」で始まるえほんものがたり1つ。

全班満点でした＼(^o^)/

「投げてお菓子をゲットだぜ」

ここでさっき作成した新聞紙のドーナツ登場!! 1着だった班から順番にドーナツを投げ、かかった分のお菓子をゲットする方式でした。みんなの一番人気は果汁グミだったのですが、指導員が投げた輪っかが運良く（運悪く）グミを3つ獲得してしまい、みんなから大ブーイングが起こっていました（笑）

この企画は2回目になりますが、子どもたちの発想力、ひらめき、無限大の可能性に、毎回逆にパ

ワーをいただく感じがしています。型にはまらない柔軟な表現力はさすがだと思います。子どもたちの可能性って本当に素晴らしいの一言です。

そして、毎回素敵な企画を考えてくださる父母のMさんに感謝です。お金や物に頼らずとも今の自分たちが楽しめるように活き々と行動できることが、どんぐりのみんなの素晴らしいところだと心より感じました。子どもたちの可能性に・・・せ～のっ・・・バンザーイ！！<担当父母さんの報告より（一部指導員が加筆）>

====

地域のたより 大田

どろんこキャンプ

====

大田どろんこ少年団の「どろんこキャンプ」が、9月22、23日、奥多摩・氷川キャンプ場でありました。

今年は31人の子どもが参加してくれて、無事大きな事故もなく、楽しく二日間を過ごすことが出来ました。急な気温差で、おうちの方は心配だったと思います。

現地に着いた時は少し肌寒い感じでしたが、川遊びの途中までは日射しもあり、石を積む子・水掛っこ・浮き輪に揺られて流されて遊ぶ子・色々楽しみました。

20分位すると段々河原で飛び石合戦をする子が多くなり、高学年&指導員の飛び込みを応援？して川遊びは終わりました。

着替えて暖くなった3時頃から夕飯作り。

皆で協力してお腹いっぱい食べて、後片付け後にお待ちかねのキャンプファイヤーを川原で行いました♪（6時30分頃から8時位）

8時半頃に指導員えみの『怪談話』を男子部屋で。迫真の話に前髪を垂らしたなっちゃんが扉から現れて、ノリノリの父母3人が窓をドンドン叩いたら部屋の中から絶叫(*≥m≤*)!

夜に寝付けない子も出てしまい、大変失礼致しました。

男子16人・女子15人が各ひと部屋で寝たので、男子部屋は窓を開けて寝るほど暖かでした。

二日目

夜中から雨が降りだして、少し肌寒い感じでしたが、直ぐにご飯作りなので、寒さは感じていないようです。

コテージを10時に退出だったので、作る→食べる→片付ける→荷物まとめ→掃除→帰りの会→出発と、大忙しの二日目でした。

キャンプ中は皆寒さなど感じず元気に歌って遊びました。帰りは雨の中お迎えに来ていただきまして、宿泊準備なども含めて色々ありがとうございました。

おかげさまで、子どもも指導員・付き添いの父母も楽しい時間を過ごすことが出来ました(^▽^)! キャンプ後に体調の変化などありましたら、お知らせください。

次回のどろんこ少年団活動は、10月28日(日)予定です。ハロウィンにちなんだ遊び会を行う予定ですので、またご参加ください。

★どろんこ少年団では、父母会発信の報告メールが即日流されています。小さい子どもも居てなかなか父母会に参加出来ない方などにも是非子どもたちの様子をお伝えしたい、また、帰って行った子どもたちと楽しかった少年団活動の話をたくさんして欲しい、気持ちなどから始まった父母報告メールです。子どもと話しての感想が父母から戻って来た時は指導員にも伝えていきます。(文責：萩本)



====

「Tokyoファミリー体験広場 2012」に参加しました。

====

9月30日(日)新宿の都庁前都民広場で「TOKYOファミリー体験広場2012」が開催されました。東京都青少年課が窓口となり、都内の青少年育成にかかわる様々な団体が集まって毎年行われています。

その日は、台風が関東に接近中というドキドキの開催でした。10時30分開会式の頃にポツポツ降ってきて心配しましたが、すぐに雨雲が移動し真夏のような日差しとなりました。

東京少年少女センターのブースは、恒例の「缶バッチ」「わくわく工作」です。缶バッチは予定の300個が3時頃には無くなる盛況ぶり。

わくわく工作も200人ほどが、体験しました。工作コーナーは、杉並の飛行機おじさんこと(失礼!)伊藤さんから簡単にできる工作あそびを教えてもらってます。

今年は、

- 風船人形(風船に小麦粉を詰めて、ムニュッとやると表情が変わります)
- カメレオンの舌(長細い紙を割り箸に巻いて、前に降り出すとまいた紙がビヨーンと伸びる)
- 薄いビニール袋で作った落下傘に厚紙で作る3枚羽ブーメラン

などなど身近な材料で簡単に作って、すぐに遊んで楽しめる物ばかりです。

東京センターのブース前は、広げたシートいっぱいの親子でにぎわっていました。

特別イベントとして、2020年オリンピック東京招致にむけたアスリートのトークショーがありました。中でも、事故で車椅子を使うようになった射撃の田口亜希選手のスピーチは印象的でした。車椅子の生活で自分の事もままならない状況に、数日後の事にも希望や目標が持てない自分。それが射撃に会い、少しでも良い結果を出したい!次の大会に向けて技術を磨こう!という気持ちが私を大きく変えました。目標に向かって精一杯努力する先には、沢山の可能性が待っています。とお話しされていました。

子どもや若者たち聞いていたかなあ。
予定通り4時前に撤収完了、今にも降り出しそ
うな空を気にしながら解散しました。(事務局齊
藤)



子どものあそびと仲間を育 てる全国集会 in 伊香保

第42回子どものあそびと仲間を育てる全国集会
とき：2012年11月10日(土) PM1:30

～11日(日) PM 2:00

ところ：伊香保温泉ホテル「轟」

参加費：3,000円、高校生：2000円

宿泊費：13,000円(1泊3食夕朝食付き)

ぐんまセンターの会員総出で考えました。

青少年センターの活動は、親の子育ての願
いが基本だから、親はどんな子育てをしたいのかを
とことん話し合いました。

その結果、「つながり合う、育ち合う地域」が親
の願いとしてまとまりました。そしてぐんま集会
のテーマとして「つながりあう、育ち合う地域つ
て？」という疑問文にして、その答えのひとつが
「子どものあそびと仲間を育てる全国集会」にあ
るということを表現したいと思いました。

ぐんまセンターの青年指導員、親、専門家が心
をひとつにしてお待ちしています。

主催 青少年センター全国ネットワーク
現地事務局 ぐんま青少年センター



※東京からの参加者には、東京青少年センター
で参加費補助を行います。参加希望者はご連絡く
ださい。

秋も戸狩へGO! とんとレ駅伝イベントに参 加しませんか!

青少年キャンプ村では、これまで戸狩のみな
さんと共に地図づくり、道標立て、お小夜滝、散策
路などを整備することにより、多くの子どもたち
そして戸狩のみなさんもとん平を遊び場として
利用するようになりました。そんな経緯もあり、
「戸狩とんとレ駅伝」が開催されるようになり今
年で3回目となります。

仲間や親子で参加し、気持ちの良い秋の高原を
歩くのは楽しいですよ。前泊の民宿で温泉に浸か
りいろいろ語り合うのはいかがでしょう。戸狩の
夏はキャンプ・冬はスキーで楽しんでいるとん
だいらを秋も満喫しましょう。

※東京センターでは、とんとレ駅伝チームも出
場予定です。「参加してみたいなあ」と考えている
あなた、事務局までご連絡下さい。

詳細はイベントのHPをご覧ください。

<http://togari.jp/tontore>

事務局より 2012年度会費納入のお願い

すでにお支払いいただいた方もいらっしゃいま
すが、まだの方は会費納入をお願いします。

正会員 6000円 賛助会費 3000円

【郵便振替口座】

0040-1-44067 東京青少年センター

|